

(2004年度新エンゼルプラン実績値では344か所
であるが、2009年度には710か所設置するとな
っている)。

第4節 家庭教育の支援に取り組む

1 家庭教育に関する学習機会や情報の提供

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが基本的な生活習慣や、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなど、「生きる力」の基礎的な資質や能力を育成する上で重要な役割を果たすものである。しかし、近年の都市化、核家族化、少子化、地縁的なつながりの希薄化などの家庭や家庭を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。

家庭の教育力の向上を図る上で、親が、親としての学びや経験を通じ、家庭教育についての理解を深めることが重要である。

2004(平成16)年3月31日に取りまとめられた「家庭教育支援のための行政と子育て支援団体との連携の促進について」(「家庭教育支援における行政と子育て支援団体との連携についての調査研究委員会」報告)では、行政と子育てサークルなどの子育て支援団体等との連携による家庭教育支援の取組の必要性やその方策が提言された。これを踏まえ、2004(平成16)年度からは、行政と子育て支援団体等の様々な構成

員からなる地域家庭教育推進協議会に委託し、従来から実施している子どもの発達段階に応じた子育て講座のほか、将来親となる中・高校生に対して子育てに関する理解を深める講座を開設するなど、家庭教育に関する学習機会の提供を一層充実している。

さらに、1999(平成11)年から、子育てに関する一人ひとりの親の身近なヒント集として、家庭教育手帳及び家庭教育ノートを配布し、子育て講座や子育てサークルの研修会など様々な機会での活用を推進してきた。2003(平成15)年度からは、これまで乳幼児編と小・中学生編の2分冊であったものを、より子どもの発達段階に応じた内容とするため、「ドキドキ子育て(乳幼児編)」、「ワクワク子育て(小学生低学年から中学年編)」、「イキイキ子育て(小学生高学年から中学生編)」の3分冊に改訂し、新家庭教育手帳として、乳幼児や小・中学生を持つ親に配布している。改訂に当たっては、内容についても、児童虐待、携帯電話やパソコンの利用などに関する記述を充実した。



家庭教育手帳



2 地域や社会全体で家庭教育を支える環境の整備

家庭の教育力の向上を図るためには、家庭教育に関する学習機会や情報の提供とともに、地域や社会全体で家庭教育を支える環境の整備が重要である。

このため、2004（平成16）年度からは、子育て中の親の身近な相談相手となる「子育てサポーター」の相互連携の促進や情報交換の機会の提供などに資するため、より広域的に活動する「子育てサポーター」のリーダーを養成し、地域における相談体制の一層の充実を図っている。

さらに、2004年度においては、直接子育てに関わっていない大人等も含めて、国民一人ひとりが家庭教育支援の重要性について認識し、家



父親のための子育て学習講座（富山県）

庭教育への支援について考え、行動する機運を高めることを目的として、家庭教育に関する全国的なフォーラムを開催している。

第5節 地域住民の力の活用、民間団体の支援、世代間交流を促進する

1 シルバー人材センターによる子育て支援サービス

高齢者の就労機会・社会参加の場を提供するシルバー人材センターにおいて、乳幼児の世話や保育施設との送迎などの育児支援、就学児童に対する放課後・土日における学習・生活指導等の支援を行う高齢者活用子育て支援事業を実施しており、経験豊かな高齢者が地域における子育ての担い手として活用されている。

2 市民活動活性化モデル事業

子育て、まちづくりなどの分野で、女性や高齢者が中心となっていく市民活動の事業化を初期段階で支援するとともに、その成果を全国に普及する事業（2002年度から2004年度）を行っ

ている。これにより、少子高齢化社会の進展の中で女性や高齢者の社会参加、労働参加を円滑化している。

具体的には、

子育ての経験が豊富な女性等が、働く女性の子育て支援を目的に、子育て相談や子ども向け講座などのサービスを提供する。

同じく子育ての経験が豊富な女性等が、地域の農家や商店街と連携し、ユニークな教育プログラムを作成、提供する。

などの事業を支援してきた。

こうした支援により、女性が女性の社会進出を支援し、新たな社会参加を誘発する好循環を創出する。

第6節 児童虐待防止対策を推進する

1 児童虐待防止に向けた取組

児童虐待への対応については、全国の児童相談所に寄せられる児童虐待に関する相談件数は

増加の一途をたどり、その内容も専門的な援助を必要とするケースが増えているなど、依然として社会全体で早急に解決すべき重要な課題で